



東北被災地「南三陸」でお手玉交流 東京お手玉の会の6名が参加



東京お手玉の会では、新年会で、会員の柴田綾子さんが取り組んでいる東北の被災地支援活動を、会として応援することを決め、参加者を募りました。6人の参加が決まり、柴田さんは南三陸に向き5カ所での交流会を決めました。
会からは、1人当たり5,000円の交通費と、お手玉の材料費と雑費を負担することを決めました。また、日本のお手玉の会からは、かわうそお手玉の会(高知支部)が作られたお手玉210個をいただきました。

会員が協力して、お手玉や手提げ袋、お手玉3個入小袋などを作りました。その総数は、お手玉590個、手提げ袋10、小さい布袋10、ビニール袋30となり、それらを携えて、5月27日から28日の2日間、南三陸を訪ねました。

南三陸では、2つのグループに分かれて交流会を行いました。訪ねたのは、入谷ひがし幼稚園、水戸辺仮設住宅、戸倉中学校グラウンド仮設住宅、平成の森仮設住宅、のぞみ福祉作業所、志津川保育園など6カ所、参加者は107人でした。それぞれの施設で、歌を歌いながらお手玉遊びと一緒に楽しんだり、演舞を披露したり、みなさんと笑顔の交流ができました。

現地のみなさんからは、「朝から待っていたよ」「昔は3個ゆりができたのよ」「震災当初はうつになつていたけど、やっと笑顔になれるようになった」「今までは、震災当時のことを話すことができなかったが、最近になって、ようやく話すことができるといったお話を聞くことができました。

今回参加したのは、柴田さんと、中山順子さん、奥野ふみさん、葛西文子さん、浜里悦子さん、水野晴子さんのみなさんでした。なお、東京支部では、10月23日・24日と2日間2回目の「南三陸」へお手玉の交流会に出かけます。

お手玉を通して南三陸での交流の様子を写真で紹介。



入谷ひがし幼稚園 (保育園の先生方と記念写真)
こども達がホールに集まって迎えてくれました。お手玉に触れいきいきとし、可愛い笑顔が私たちの疲れを一度に消し去ってくれました。



メンバー6名が一緒にお手玉を披露。



誰でもお手玉に触れてみんなと輪になり楽しむやり方を伝える。



日本のお手玉の会より高知かわうそその支部からのお手玉と私たちが作ったお手玉を被災地の方に。



福祉作業所「のぞみ」へ訪問した東京のお手玉の会メンバーです。



仮設住宅の交流広場ではグループに分かれ、より多くのみなさんにお手玉を楽しんでいただきました。



お手玉を渡すと、幼い時に覚えていた感覚をすぐに取戻しさっそくゆりはじめ笑顔が甦る。



手を振ってお迎えを頂きました。車の中から撮影です。



コンクリートや木の廃棄が仕訳されて残っている。



今も瓦礫の残骸が山のように残っています。
建物被害：3300件

東日本大震災から、2年2ヶ月たった5月27日28日の2日間会員6名で南三陸の町を訪れた時の現地の様子です。